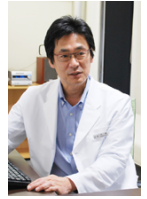


(2010年09月15日実施)

第4回 JOMF 特別企画セミナー 大阪開催のご報告 (記事スタイル)

9月15日、大阪商工会議所402会議室において『海外に人を派遣する企業の為の予防接種 Q&A ~あなたの疑問にズバリ回答!~』と題し、渡航医学センタ西新橋クリニックの大越裕文先生をお招きして第4回 JOMF 特別企画セミナーが開催されました。終了時には東京会場と同様に土砂降りの雨になったにもかかわらず16名の方が参加、大越先生のウィットにあふれ、且つ明快なプレゼンを熱心に聴講、その後の懇親会会場でも質疑応答や、参加企業間での意見交流が展開されました。



大越裕文先生

—今回も東京会場と同様に大雨に降られましたね？

A: そうですね。第一回の銀座ラフィナートホテル(3月4日)、第二回目の大阪商工会議所(4月22日)ではセミナー終了後に降られましたし、第三回の LEN 西新橋では台風の影響で始まる前から土砂降りでしたが、皆さんがお帰りになる頃になって雨がやんでくれたので、「雨男返上！」と思っていたら、今回も終了後になってから降りだして、懇親会を終えた時点で土砂降り。おかげで、タクシーも拾えずに新幹線に乗り遅れてしまいました。ただ、これまでと同様に無断キャンセルの方もなく、みなさんきちんと定刻前にはお揃いでして、予定通りに開始することができました。毎回のことですが、参加者のみなさんに非常に熱意と情熱を感じています。

—16名の内訳は？

A: 男女別では女性8名、男性8名。職種別では医療従事者5名(医師1名、看護師・保健師4名)、人事・総務・安全管理10名、その他1名でした。

—今回「予防接種」を取り上げた理由は？

A: 前回の東京・大阪会場でのミニセミナーのアンケート結果と昨年10月の海外医療情報交換会のアンケートでご希望が多かったことから決定しました。



いつもダンディな大越先生は、今でも鎌倉あたりを走る現役アスリート

—今後も東京と地方での開催を考えているか？

A: はい、東京だけでしかセミナーが開かれないうことに対する地方の不満というものもありますから。最近の経済状況、各企業の経営状況から考えると午後の何時間かの為に新幹線や飛行機を使っての出張というのは企業のみなさんにとっては負担が大きいと考えていますし。もちろん、『JOMFのセミナーは凄いいよ!』といった評判が定着したら、そして、経済が上向いてきたらまた様相も変わるかもしれませんが、それでも東西の情報格差はあってはなりませんし、、、また、開催地については大阪固定ということではなく、将来的には名古屋などの中部東海地方、広島や岡山などの中国地方での開催にこぎつけられれば地方格差がなくなるものと考えています。更に、「うちの会社で場所も人も確保するので、出前形式のセミナーをやってほしい」といったような要望が潜在的にあることも承知していますので、講師の先生には大変かもしれませんが、企業とJOMFが共同作業でセミナーを実施できれば素晴らしいですね。

—Q&A形式のセミナーは珍しいですね？

A: 大越先生との打合せフリートークの中で浮き上がってきた形なのですが、参加者が聞きたい質問に大越先生が一つ一つ丁寧に答えをだされるという形で、東京と大阪会場分含めて8社の方から27の質問が、あらかじめ寄せられ、お仕着せではない、テイラーメイドのセミナーにすることができたかなという感じです。アンケートを見ても、懇親会会場での皆さんの口頭意見を聞いていても『全編がQ&A形式のセミナー形式が大変よかった』という声が出ていました。セミナーの企画者としては大変うれしいことです。

—参加者の反応は？

A: 絶大でした。ある電器メーカーの方からは「緊急性からJOMFセミナー事務局に質問をしたところ、本セミナーの前に回答を頂き、とても助かりました。ありがとうございます!」というご挨拶も戴きましたし、セミナー後の追加質問も提出して戴きました。まさに参加者と講師の先生が一体となった会場の雰囲気醸成されました。ワンウェイではなく、ツーウェイコミュニケーションの場になったと思います。この「ズバリ回答!」シリーズは、講師の先生の協力が得られれば今後のセミナーでも使ってみたいと思います。

—主な内容は？

A: 海外赴任の際に赴任者やそのご家族の方からよく質問されて人事担当が戸惑うような問題が中心になっていました。大越先生は、それらの質問に一つ一つ回答し、さらに最後にその病気と予防接種に関する纏めのスライドを三段構えで準備されていたので、聞いていた方には極めて理解し易かったと思います。予防接種の基

本に関するもの、地域(国)別の予防接種に関するもの、出張と予防接種に関するもの、接種回数に関するもの、各々の病気(黄熱病・A型肝炎・B型肝炎・破傷風・狂犬病・結核・日本脳炎・ポリオ・腸チフスやはしか、コレラ等)に関するものといった構成で纏められていました。

—特に印象深かったものはありますか？

A: 三つあげましょう。① B型肝炎感染者に対する差別について、中国では就職ができない、入学拒否される場合があるという話についての東京会場でのお話の後日譚です。突然大越先生から宿題をもらった形のJOMFですが、G&Cコンサルタントの平沢健一先生のご紹介もあって、北京の君合法律事務所の劉新宇弁護士から中国の法律原文及びその解説を入手し、関係者にお知らせできたこと。②黄熱病の予防注射がなかなか受けられず、東京の人が関空まで行ったといった『黄熱難民』のお話が出たこと(これは前回セミナーの日の夕刻にJOMFと、官庁や学会・大学の医療関係者との医療に関する懇話会の場で大越先生が確認されたものを大阪セミナーに活用したものです)③日米の結核に関する状況が違う(日本は結核流行国、アメリカは感染リスク無しの国)ということに起因するものなのですが、米国人医師と駐在員ご家族の奮闘の様子が手に取るようにわかる質問に対するその大越先生回答が印象的でした。

—もう少し詳しく

A: ツベルクリン(TB)テストを受けたご家族が、陽性と判断されてしまい、小さいときにBCGを打っていると説明すれども、薬を処方され、家族全員TBテストを受けさせられ、薬代に60ドル『盗られ』、TBテストにも60ドル『盗られ』、合計7回も病院に『行かされ』た。一体アメリカ人医師はどうなっているんだ？という質問の趣旨でした。質問者の『盗られた』という表現が生々しくリアリティがあったので、大越先生もそのままスライドにして、日米の結核に関する認識の差を説明、この種のトラブル回避策として医師の署名付き証明書を持参するとよいといったアドバイスをされていました。米国人医師がBCGのことを知らないというのも自国中心でしか考えないというアメリカ人の特質を語っているなとも思いました。

—次回ミニセミナーは？

A: 10月29日午後東京如水会館で行われる海外情報交換会の講演会(外務省鈴木満先生によるメンタルヘルスABC)を受け、東京以外の地区でもメンタルに関するものを情報交換会フォロー版として11月頃をめどに実施できればと考えています。お楽しみにしてください。

—セミナーをやってよかったなといえることは？

A: 前回のセミナー参加企業の方とセミナーの後も中国衛生部情報の翻訳発信や、中国からの研修生のリスク対策について幾つかご提案させて頂いたりした結果JOMFの会員になって戴けたこと。また、今回のセミナー後に、大阪のセミナーにご参加戴いた企業からも会員になろうかというお話をうかがえたことで、後者については、その後東京のオフィスにまでお越し戴き、入会手続きのご説明にまでこぎつけたことかなと思います。一つ一つの小さなイベントを通じて会員の輪が広がってくれればよいなと思っています。



講師と聴講者の距離を密にする為のV字型の座席レイアウト(写真左)と講師側からみた参加者(右合成写真)



当日の会場の雰囲気伝わればと思います。座席アレンジも思い切ってV字配列としました。事前質問とその回答に加えて、その場でも活発な意見交換がなされました。『私の質問に真っ先に答えてもらえてよかったですう！』と参加者には笑顔が見られました！



大越先生の説明に熱心に聞き入る参加者のみなさん。「これは聞き逃せない」というところでは、熱心にメモをとる人も(写真上4枚)

(JOMF ニュースレター編集部)